議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三
鈴鹿市伊船町2751　電話 371-0423
2010.1.27 №１７９　FAX 371-2469

新名神、来年から工事

鈴鹿山麓・椿小の西側を通るルート

新名神高速道路の鈴鹿ルートは、2012年度から工事に着工する予定です。14日に椿小学校で、工事の説明会がありました。

新名神の四日市ジャンクションから亀山西ジャンクションまでの区間27.8キロ（内トンネル4.1キロ）のうち鈴鹿ルートは、内部川から椿地区を通り、小岐須町から御幣川を渡り、そこからトンネルで庄内の地下をくぐって亀山西ＪＣに取り付きます。椿小から北側は盛土、南側は高架の工法で、工事はトンネルから始まり、その土を盛土にして道路を建設していきます。

新名神の鈴鹿ルート図　左上が亀山西ＪＣ　丸印がＰＡ

椿地区にＰＡ施設とスマートＩＣを設置

道路計画は４車線ですが、用地は将来計画の６車線分を買収するとのことです。また、椿小の北側にはパーキングエリアを計画、駐車場と売店などの施設と、そこから出入りできる「スマートインター」を予定しています。鈴鹿からの出入りは、このスマートＩＣと東名阪鈴鹿ＩＣの２ヶ所になります。

完成予定は2018年とのことで、今年から用地買収交渉が本格化します。この大工事が始まり、巨大な堤防のような道路の姿が見えてくると、この静かな山里の風景はガラリと変わります。

学校給食センターを見学しました

20日に「中学校給食を実現する会」の皆さんとともに、岡田町にある「鈴鹿市学校給食センター」を見学、そして試食もさせてもらいました。

一昨年に移転新築されたセンターは、近代的な施設設備で、機能的にも衛生的にもしっかり考えられた建物です。通された２階の部屋の窓から、下の調理場や洗浄室が眺められますが、においや音などは完全に遮断されています。ここで働く職員は33人、内訳は所長、栄養教諭３人、事務１人、そして調理員28人です。調理員は正規16人、嘱託６人、パート６人ですが、半日だけという勤務はないそうです。

窓から見る調理場は、近代的な工場のようで、でっかい釜がずらりと並んで、でっかいしゃもじで料理を作っています。短時間で5400食を、間違いなく作り上げる、緊張を要する作業です。

朝から夕方まで、切れ目なくみっちり続く作業

仕事の流れは、朝８時から食材搬入、調理開始、11時までに調理を終えて各学校ごと、各クラスごとに食缶に詰めて、11時から20分で６台のトラックに積み込み出発、学校には11時45～55分に到着します。発送後は、使った機材や床をきれいに洗います。

午後は１時30分から、食べ終わった食器が順次到着、運搬コンテナまですべて洗浄器にかけて、乾燥ののち学校・クラス別に収納するのに４時20分までかかり、殺菌・保管の作業が終わるのは、午後６時とのことです。このように１日の工程が流れていて、「調理員が昼からはヒマだ」とは、とんでもない誤解であることが分かりました。

11時30分から、出来立ての給食を試食させてもらいました（実費を払って）。この日のメニューは、カレーシチューと、大根のレモン酢あえでした。カレーはルーから手作り、ビーフが入っておいしかったです。

経験豊かな職員のチームワークによって作られている、安全でおいしい給食。市の直営だから、出来ているのだと実感しました。

「すずかの地産地消推進条例」提出

私も参加している「鈴鹿の農業を考える議員の会」が、昨年から検討してきた「すずかの地産地消推進条例」を、3月議会に議員提案することになりました。すでに全議員による討議を２回行なっているので、議会ではそのまま可決される見通しです。

条例は、前文と12の条文からなっていて、鈴鹿で生産した安心・安全な食材を鈴鹿で消費するために、生産者、消費者、事業者、行政が協力して推進していこうという趣旨です。そして、市として「地産地消推進計画」を策定すること、そのための推進体制を整備することを規定しています。

この条例に基づいて、鈴鹿の農業と食育をおおいに進めていくことが求められます。

Ｃバス南部路線が「本格運行」に

2005年10月から５年間「実証運行」されてきたＣバス南部路線が、この４月から本格運行にされることが、14日の市議会全員協議会で報告されました。南部路線は、白子・平田線、太陽の街・平田線の２路線で運行され、これまでの実績は年間利用者数が10万人超、１便平均8.6人で、市民の足として定着してきました。

先に本格運行しているＣバス西部路線の年間21万人、１便15人には及びませんが、これからの高齢社会の移動手段として、市民の暮らしに欠かせない公共交通として、改善をしながら維持していくことが求められます。

私はさらに、亀山市との市境でそれぞれのバスが連携できていないことを、広域で解決することを求めました。

「議会レポート」第４集を出版しました

このたび私の「議会レポート」を４年分まとめて本にしました。４冊目になりますが、今回は2006年10月の第140号から、2010年12月の第178号までの39回分です。第１号が1993年11月で、足かけ17年発行を続けています。毎月発行を心がけているのですが、時々さぼるので、月数に10回ほど足りません。ご希望の方にお渡ししていますので、連絡ください。無料ですが、カンパも受け付けています。どうぞよろしく。

ずいそう

幸福度１位の国デンマーク

デンマークに住んで43年という日本人・鈴木健治さん（ケンジ・ステファン・スズキ）の「消費税25％で世界一幸せな国デンマークの暮らし」（角川新書）という本は、タイトルの消費税のことではなく、この国の社会制度について日本とどう違うのかが書かれている。デンマークは租税と社会保険料を合わせた「国民負担率」が71.7％と、日本の２倍近い負担であるが、その再配分の実態が日本とまったく違っているのである。

払った税金がきちんと国民に再配分されている

具体的にみると、まず医療費は無料、出産も無料、保育サービスは有料だが75％の助成があり、別に「子ども手当」もあり、障害の子や親への支援も十分ある。義務教育はもちろん、高校、大学も無料、入試や学校格差もない。在学中の生活費も「就学支援金」が出て、親が仕送りする必要がない。

65歳から支給される国民年金は、税で国から支給され、加えて掛金をする上乗せ年金や早期退職年金も完備されている。在宅介護サービス、葬儀費用も無料、失業給付は所得の90％で最大４年、生活保護、住宅手当制度もきちんとしている。

デンマークの国家予算の、何と40％が社会福祉予算として使われているという。また30％の地方交付金もその多くが地方の育児支援や病院、教育に当てられる。これだけメニューがそろっていれば、税金が高くても、払った以上の見返りがあり不満はないだろう。

それでは国民がぐうたらにならないかとの心配もあろうが、医者はカゼぐらいでは薬も出さない、大学生は必死に勉強しないと卒業できない、個人番号制度により脱税や不正ができないシステムなど、社会の基本にきびしさとけじめがある。

イギリスのレスター大学の調査「国民の幸福度ランキング」で、デンマークは第１位、北欧や西欧諸国が上位を占め、わが日本は90位という結果である。国民を大切にする政治が続いている国と、もともと不十分だった社会保障をバッサバッサと切り捨てている日本の政治の違い、その異常さに愕然とする。とともに、どう変えれば日本が良くなるかがハッキリ見えてくる。